



膵炎ってなに?

どんな
病気?

膵臓の炎症で、嘔吐や腹痛、下痢が見られる病気。多くは急性です。本来膵臓は、分泌する消化液の影響を受けないようバリア機能をもっています。しかし、なんらかの原因でバリアが壊れ、膵臓自身が消化されて炎症を起こすのが膵炎です。膵臓の炎症が、胃や十二指腸に広がり嘔吐や腹痛、下痢の症状が出ます。強い炎症が広範囲に急激に起こるのが急性膵炎で、弱い炎症が長期間継続するのが慢性膵炎です。

主な
症状

繰り返す消化器症状や腹痛、元気消失などが見られます。

急性膵炎の場合、下痢や嘔吐、腹痛による症状がみられます。ただし、犬では、腹痛による症状がわかりにくいことも。

消化器症状

- 繰り返す嘔吐や下痢
- 食欲不振
- 水を飲むだけでも吐くなど



※慢性膵炎では、嘔吐や下痢がときどき起こる程度で、腹痛もあまり見られません。

腹痛による症状

- なんとなく元気がない
- おなか張り、触ると痛がる
- じっとしている
- 震えている
- お尻を高く上げる
祈りのポーズをするなど



祈りのポーズ

発症リスクを上げるおもな要因

膵炎発症の原因は、はっきりわかっていないものの、発症に影響を与えるリスク要因はわかっています。

- 高脂血症 ● ホルモンの病気(クッシング症候群、甲状腺機能低下症)
- 特定の薬の服用 ● 外科手術の麻酔の影響
- 脂肪の多い食事 ● ストレス

発症リスクが高い犬

高脂血症になりやすい犬種は要注意。そのほか、小型犬全般は発症リスクが高いとされています。

- 遺伝的に高脂血症になりやすい
ミニチュア・シュナウザー、シェットランド・シープドッグなど
- ヨークシャー・テリア、トイ・プードルなどの小型犬

主な
検査

血液検査と画像診断が重要です。

血液検査では、膵特異的リパーゼという数値を測定し、診断の指標にします。ただ、診断には、血液検査だけでは不十分。胃や腸に腫瘍や異物があっても、数値に異常があることがあるためです。超音波検査で腹部を観察し、膵臓の炎症、腫瘍、異物などの有無を確認することが重要です。



主な
治療

膵炎と診断されたら、1週間程度の入院治療が必要。おもに**対症療法**を行います。

抗炎症薬で膵臓の炎症を止めたり、痛み止めで痛みへのストレスをやわらげたりします。あわせて、嘔吐や下痢による脱水状態には点滴、吐き気には吐き気止めのように、**症状に対する治療**も行います。また、早めに食事を再開すると回復が早いとされているため、症状を見ながら、できるだけ早く膵臓に負担をかけにくい低脂肪食を与えます。退院後も、毎日の食事を低脂肪食に切り替え、その後継続していきます。



いぬに多い病気、そこが知りたい! は「いぬのきもち」で連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと

2号
(2ヶ月分)
無料!!

